

第 89 回東部総会 ダイバーシティ委員会企画プログラム

<指導医コース>

会長：山形大学医学部腎泌尿器外科学講座 土谷順彦教授

会場：やまぎん県民ホール 日時：2024 年 10 月 4 日（金）16:20-17:30

テーマ：「みんなどうしてるの？泌尿器科における人事と専門医教育プログラムの地域差と問題点」

座長：山形大学医学部腎泌尿器外科学講座 土谷順彦 先生

横浜市立大学大学院医学研究科泌尿器科学 篠木理沙

基調講演

九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野 江藤正俊 先生

「日本泌尿器科学会による専門医育成方針」

泌尿器科を専攻する医師は過去 10 年で増加している一方、専門医資格取得後に医局を離れる、あるいは泌尿器科を辞める医師が増加しており、特に地域医療の崩壊が懸念されている。本講演では、学会における泌尿器科医育成方針や、教育ワークショップなど若手医師への教育支援についてお話しいただいた。また、専門医資格取得後に大学院進学や関連施設での勤務、さらに大学病院での勤務を通じて、生涯教育を実現する体制が整っている九州大学泌尿器科学分野のシステムについてもご紹介いただいた。

秋田大学大学院医学研究科 腎泌尿器科学講座 関根悠哉 先生

「秋田大学での研修教育システムについて～地方大学での現状～」

秋田大学腎泌尿器科学講座における若手医師の教育体制や専門医取得への道のり、大学院進学についてお話しいただいた。入局直後は大学で幅広い分野の知識と経験を積み、その後関連施設で研鑽を重ねることで、秋田県の医療を支える人材を育成する仕組みが整っていることなど、ご自身の経験を交えながら話ししていただいた。

札幌医科大学泌尿器科学講座/砂川市立病院泌尿器科 阿部純也 先生

「専門医取得前に一人医長をやってみて」

後期研修中に市中病院の一人医長を任命され、勤務されたご経験についてお話しいただいた。手術や入院を含む診療業務を全て一人で行う中で、医局からの診療補助を受けながら手

術や入院件数を増やしてきたことや、モチベーションを維持するために工夫された点など、ご自身の体験を率直に共有していただいた。

筑波大学 腎泌尿器科 野中遥奈 先生/濱田和希 先生

「自分の特性を活かした働き方とは」

当初の発表者であった野中先生がご懐妊中であったため、代わりに夫である濱田先生にご登壇いただいた。市中病院での後期研修中に第一子を出産された御経験や、その後大学院進学中に第二子を妊娠された際のエピソードを交えながら、ロールモデルが少ない状況でキャリア形成を模索する中での悩みについてお話ししていただいた。

昭和大学医学部泌尿器科学講座 大水円夏 先生

「医局の未来予想図【ゆとり世代、SNS世代にとっての医局】」

ご自身の泌尿器科医としての勤務状況についてお話しいただき、現行の医局制度のメリット及び、こうした制度と若者世代の感覚との乖離についてご意見を伺った。医局制度のメリットとして、幅広い経験を積むことができる、組織に所属することで得られる安心感、役職を目指せることなどが挙げられた。一方、キャリアが多様化する中でSNSや転職サイトの普及により影響を受ける若手世代の悩みについても言及していただいた。

総合討論

5名の演者が登壇し、「大学の医局人事の中でキャリア形成することのメリットは何か？デメリットは何か？」「各大学医局へのリクルートで工夫している事はあるか？」という2点について意見を伺った。

大学医局人事のメリットとして挙げられたのは、教育体制が整っていること、他の医局との連携が可能であること、また先輩や後輩から刺激が受けられることなどであった。一方でメリットとしては、独自のキャリアを積むことが難しい点や、コミュニティを抜けるのが容易ではない点が挙げられた。

リクルート活動における工夫としては、若手医師や女性医師が活躍している姿を見もらうこと、女性医師を対象とした地域枠を設けること、などが紹介された。また聴講された先生方からも多数の質問が寄せられ、活発な議論が交わされた後に閉幕となった。

文責 篠木理沙

